

新潟県中越地震報告会

会員サービスグループリーダー幹事

橋爪秀夫（株）ジオデザイン

平成17年2月10日（木）13:30～18:00 に国士舘大学講堂において新潟県中越地震に関する災害調査報告会を、関東支部および北陸支部の共同主催、関東地質調査業協会、東京都地質調査業協会の共催で実施した。報告会には様々な方面から約190名の参加者があった。この報告会では、1. 地質構造・活断層、2. 強震動、3. 地すべり、4. 盛土の被害、5. 液状化、6. 土木構造物の被害、7. 農業施設の被害、8. 建築基礎及び宅地の被害、という8テーマに分け、各分野の研究者たちによって最新の報告がなされた。1. 地質構造・活断層では、地震を発生させた活断層モデルや地震によって地表面に発生した地表断層についての報告があった。2. 強震動では、1600gal程度の加速度が計測され、通常地震よりも大きなものであったことがデータで示された。3. 地すべりでは、地質構造の見地から、砂岩・砂岩シルト岩の互層の分布域に多発し、泥岩の分布域では比較的少ないということが報告された。4. 盛土の被害では、従来から言われている切り盛り境界や構造物と盛土の境界部での地盤変形が多数確認され、降雨の影響も示唆された。5. 液状化では、過去に河川があった場所との相関があり、また埋設管周囲の埋戻し土の液状化については周囲の地盤に影響を受けることが示された。6. 土木構造物の被害では、主に橋梁とトンネルについての被害事例が写真で示された。特に橋梁では主鉄筋の段落とし部での被害が見受けられ、また幅員が大きな構造物では橋脚のロッキングによって被災することが示され、耐震設計の見直しが提言された。7. 農業施設の被害では、農地・農業用施設の被害概要とフィルダムの被害について示された。特に被災したダムの地震記録が計測されており、事後解析が望まれる。8. 建築基礎及び宅地の被害では、地盤変形が要因である事例と構造物自体の基礎形式が要因である事例が示され、具体的・実効性のある対策技術とその支援が必要であるとの報告があった。いずれの報告も今後詳細な検討が実施され、地震に対するさらなる技術向上が望まれる。最後になりましたが、本報告会で発表された講師の方々、また本報告会を実施する上で講堂を貸与していただきました国士舘大学の柴田英明教授をはじめとする大学関係者の方々に深く御礼を申し上げます。



盛土の被害について報告する大塚先生



講師の方々、国士館大学の方々と記念撮影